

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：本通六丁目自治会

開催場所：本通六丁目公会堂

開催日時：平成 28 年 6 月 8 日（水）19 時 00 分～20 時 46 分

参加者：自治会側【地域住民の方 26 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、田中戦略推進課長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 池田本通六丁目自治会長あいさつ

・みなさん、こんばんは。今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。また、日ごろ町内会活動に御支援、御協力いただきましてありがとうございます。さて、本日は染谷市長をお迎えしまして、皆さん六丁目に住まわれて、色々ここが素晴らしいとか、ここは直したいとか、色々な意見があると思いますので、今日、ざっくばらんにお話をいただいて、本通六丁目素晴らしい街になるように、また島田市がもっと魅力的な街になるような、そんなきっかけづくりの会合にしていきたいと思いますので、みなさん、それぞれ忌憚のない御意見発表していただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・六丁目の皆さん、こんばんは。一日のお仕事を終えて、お疲れのところ、本当ならお宅にいらっしゃれば、今頃、一杯飲んでゆっくりされているところを、こうしてお出ましまして、本当にありがとうございます。今日、私は 7 時に家を出て、午前中、「全国市長会」という会が東京でありまして、午後、国土交通省の会議に出まして、午後 5 時 3 分の新幹線に飛び乗って、先ほど島田駅に着いて、真っ直ぐここに、間に合うかハラハラしながら駆けつけたところでございます。疲れていないように、皆様としっかりとお話をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

実は、色々なところで車座トークをやっていますが、こんなに女性の方が参加してくださっているところは、他になかったような気がします。男性対女性の比率として。今日、ここに来て、まずうれしいと思ったのはそのことでありまして、是非とも日ごろお感じになっていることをお聞かせいただければと思います。

■市政運営について

・今日、午後行った、国土交通省というところの、「土地政策審議会」の「土地政策分科会」というところの委員をしています。全国で首長で出ているのは私だけで、あとは、大学の先生とか不動産鑑定士協会の会長とか、大手ゼネコンの社長さんとかが出ている会議なんですが、そこで何を話しているかとい

うとですね、だんだん人口が減少してきて、人口が減り続けるという現象は、日本において江戸時代以降初めてのことなので、これまでは、どんどん住宅地が増えて、道路ができたり、そういうことが乱開発されないように、国はいろいろと規制をかけたり、ここは工業用地だよとか、ここは住宅地だからといってやってきたんですね。ところが、今度は土地があちこち放棄される時代になって、山は持ち主がわからない、空き家も増えている、という時になったら、国も土地政策を見直さなければならぬという土地政策の見直しのための、審議会をやっているんです。その中で、今日議論したのは、これから売ることもできない、固定資産税を払うことも大変、相続も登記がちゃんとされていない、持ち主がどこにいるか分からない、という土地が増えてきたときに、この土地をどうしますかという話し合いをしてきました。

行政に寄附をしたいということを民間は言うんですが、実際島田も年に何回かは御寄附をいただく話をいただくことがあるんです。でも、正直言って、売れる土地だったら皆さんお売りになるんですね。売れない土地だから行政もらってくれないかと言われるわけです。

でも、行政はその寄附を受けたら、また、維持管理のお金に税金を使うことになります。なかなか今、土地を御寄附というかたちでいただくことは、今の現状では難しいことです。

今日、私が提案してきたものは、ひとつは、地域にある土地を昔の原っぱのような土地を、高齢者のグラウンドゴルフの土地として活用するとか、地域のお祭りの広場として、こうした地域コミュニティの財産として使っていただければ、行政の方は、固定資産税を免除することを考え、管理の方は地域の方にお願ひするというようなやり方も、これまでにない土地の使い方じゃないですかというようなことや、色々提案をしながらお話をしてきました。

国は今ですね、耕作放棄地ならぬ放棄宅地という言葉を使い始めています。そばに所有者が住んでいないとか、所有者がわからないとかという土地が、これから街の中で大きな問題になってくる。団塊の世代の方たちは、持ち家率が80%を超えています。団塊ジュニアの方たちも持ち家率が60%を超えています。そうすると、遺産相続のときに親の家をもらっても、自分たちは住むところがあるわけですから、困るというか、そういうお宅が今後10年から15年の間に、急激に増えると、大きな社会問題になってくると、というようなお話であります。

そんな話をしながら、国に行くたびに、いろんな政策的な話をしてくるわけですが、目の前の生活をいつも一生懸命暮らしている皆さんはね、10年先、20年先の土地の政策の話だとか、あまり今は関係ないよと思われるかもしれないです。でも、実際、島田の人口減少を考えると、わずかずつでも減ってきているわけです。私、来る前に調べてきたんですが、ここ5年間に、毎年生まれる赤ちゃんの数がどれくらい減ってきたかということ、昨年生まれた赤ちゃんは722人でありました。過去5年間見たら、ちょうど150人減っていました。1年間にちょうど30人くらいずつ減ってきているんですね。今、成人式の対象者は、1,000人以上います。大分前だと1,800人だとかね、大勢いましたし、2,000人を超えてた時もあった。これが、毎年30人くらいずつ減ってきている。なによりもっと恐ろしいと思ったのは、川根本町さんに聞きましたら、昨年生まれた赤ちゃんは15人だそうです。

消滅可能性都市という言葉が、一昨年、大変社会的な関心になって、これによって、まち・ひと・しごと総合戦略を各市町がつくるようになったわけですが、本当に生まれてくる赤ちゃんの数が減ってきて、静岡県の中で一番消滅可能性都市として、可能性の高い、2040年に消滅しているんじゃないかと言われたトップが川根本町さんだったんです。それが、昨年15人ということはね、本当にその現実をひしひしと垣間見るところであります。

一方で、この5年間に65歳以上の方がどれくらい増えたと思われますか。全体のパイは少しずつ減っています。でも、この5年間に65歳以上の人たち

は、3,188人増えていました。ということは、1年間に600人くらいずつは増えてきているということです。今、島田市の高齢化率は、29.2%です。15歳以下の子どもの数は、13.8%ということなんです。

それで六丁目はどうなのかなと思って調べてきました。3月末の時点で、六丁目は、世帯数が132世帯、人口が352人、65歳以上の方が122人、高齢化率が34.7%、3人に1人が高齢者ということです。15歳以下のお子さんの数が41人で11.6%となっています。市内全体の平均からすると、65歳以上の方が少し多くて、子どもの数が少し少ないということです。しかし、すでに（65歳以上の割合が）4割を超えている自治会もいくつもありますし、子どもの数が0というところも出てきているという現状であります。

そうした現実を踏まえて、地域コミュニティというかこの地域が、活力ある地域であり続けるためにはどうしたらいいのかということが、これからの行政の実は大きな課題になってきています。

私はいつも、市政運営のときに迷ったりするときに、森昌也さんの本を紐解きます。見ます。森昌也さんは昭和28年に島田市長になられて、20年間お勤めになって、昭和48年にお辞めになったんです。28年に市長になった時には、「市民の手による市民のための市政を実現するんだ。」とおっしゃって、昭和48年にお辞めになるときは、自分はこの20年間、一生懸命市長として勤め上げてきて、この街を量的に大きく発展させた。道路もできたし、市民会館や市役所ができたり、一生懸命企業誘致をやったり、大きく発展させた。でも、本当に住みやすい街とは、「その量的な発展の上に質的な発展を遂げた街なんだ。」ということをおっしゃって、昭和48年に退任をされたんです。私はいつも森さんの本を読んで思うことは、願うことや、市政の運営の方針は同じなんです。だけれども、世の中がガラリと変わって、森さんの時代は、今日よりも明日は必ずよくなると信じられた時代。土地は上がっていくし、子どもの数も増えていくし、人口も増えていくし、どんどん税収も増えていく時代。

ところが、森昌也さんが市長になられてお辞めになったちょうど60年目、還暦の年に、引き継いだ私は、まるきり裏側から見ているような、人口も減っていくし、高齢化の問題、少子化の問題、待ったなしで働く世代が減っていくわけですから、税収の減っていくという時代に、引き継いだんですね。

街の運営方針は、目的とするところは何にも変わらないんです。一人ひとりの市民の皆様が、安心して暮らしていける、暮らしやすい街をつくるんだと。市民の命を守るんだということは何も変わらないんです。けれど、時代が変わって、行政だけに色々やれることはもう終わってきたかなと思っています。

そうした中で、その地域の活力を維持するためには、やっぱり、自分たちの地域のことを自分たちでよくしたい。変えていこう。こういう課題があるから行政と一緒に解決していこうと動き出してくれる市民が生まれてくる。動き出す市民が増えてくるところが、実はこれから元気に住み続けられる土地なんだと思うんですね。

我々基礎自治体も、全国1,700もの市町村がありますから、地方創生の競争をしているわけです。地域間競争というんですけれども。本当に競争しながら、今、全国一律なんてことはなくて、どれだけ工夫しているか、知恵を出しているかということ競争をしているんです。だけれども、島田の中の色々な地域もまた、そこに住む人たちが自分たちの地域を愛して、どれだけ自分たちが地域のために、自分は何ができるんだろうと思ってくれる人が、たくさんいるところが、やっぱり元気をだしているという時代になってきていると思っています。

だから、私は市長になる時に4つのことをお約束したんですよ。一つは「公平・公正で市民の声が届くまちをつくりまします。」と言いました。

これは、色々ご批判もあるかもしれませんが、精一杯努力しながらやっています。少なくとも、公平・公正であるということについては、私は、自分の心の中が見えるならば、全てさらけ出して見せたいほど、この市のために懸命に尽くしていくということはきちっとやっていくということをお約束できます。二つ目は、皆さんが、行政のやっけることがわかるように、情報公開をしっかりやりますよ。決まってくるプロセスを見せますよ。それから、例えば、入札の後、例えば、業者がいくらで入れたのか、私がいくらで札入れしているのか、そういうことも全部、インターネットの中で見えるようにしています。昨日なら昨日のところをクリックすると、昨日あった入札の結果は全部出ている、過去のものもそうやって出しています。病院の設計なんかも一日かけて市民の皆様にご聞いていただいて、審査員の先生にも聞いていただいて、プレゼンしながら決めていくという方法にしています。三つ目にお約束したのは、広域での行政ということをお約束しました。これは、やっぱりこれからの時代に、島田市が単独でやれることには限りがあります。そうした中、やっぱり、志太は一つ、経済圏も生活圏も一つである志太、そしてまた静岡県中部、静岡県という広域でのつながりの中で、お互いに譲り合えるものや、一緒に協力してやれることはやっていきたいと思います。7月のはじめには、また、志太3市のトップ会談を島田市でやりますが、毎年、今年度は何をお約束して一緒にやっていくかということもやっていますし、普段から各首長さんたちと携帯電話一つで色んなお話ができる、そういう広域の行政をやっています。そして今、市民会館が使えなくなっている間、周辺のホールを貸していただいているのも、広域の行政のつながりの中です。逆に、例えば、救急車が六合と藤枝の間でお互いに留守していて使えないというときには、島田から藤枝に救急車は行っていますし、逆に藤枝からうちの方に来ることもあります。それから、広域の消防を4月から始めていますので、特に島田の消防は、南の吉田や牧之原のお手伝いもすることが多くなりました。そういった広域での連携をしています。

四つ目には、財政の健全化に目途を立てる、財政の健全化に心がけていくということがお約束した四つ目であります。先ほどお話したように、どんどん税収が増えていく時代には、市長の4年間に何をやるんだとって、これもやります、あれもやります、これもつくりましますとって、借金も後で税収が増えていけば、何とか返していくことができたこともあったんです。だけど、これからの時代は、私たちの孫や子どもが島田市に住み続けて、彼らのやりたいこともあるわけなんですね。当然のことながら。若い人たちに選択の余地を残せる財政というのは、自分の時代だけではなくて、10年先の島田のために、今何を選択するかということを考える、それが今の市長の努めだと思ひながらやっています。島田市は、私は別にお金を貯めることが決して趣味ではありません。ただ、借金もだいぶいっぱいありましたので、まずその起債残高を減らすということで、3億円以上今年減らしています。そういったことを重ねながら、病院にもたくさんお金がかかります。小中学校がですね、昭和40年代後半から50年代初め頃に、たくさん建てられたものですから、そういった小中学校の老朽化もまったなしであります。

それから、市役所の庁舎も実は今年53年目です。病院を先にするよという中で、少し我慢をしていますし、市民会館も今、解体が始まったところあります。市民の皆さんからは、本当に島田の誇りであった市民会館をとにかく早く造ってほしいという要望書もいただいております。そうした中、市民会館は、直近の5年間でどれくらい使ったのかを見たときに、だいたい本番で使われているのが年間30日くらい。そして、練習日も含めて、50日前後でありました。週に一回くらいしか大きなホールは使わないんだよね。練習を入れても。実は、市民会館を建替えるとなれば、70億円、80億円のお金は当然かかるんです。いいものを造れば100億円かかるかもしれません。市役所の庁舎も今、古くなってきている。どれも建て直さなければいけないときに、

やっぱり、島田はこれから「稼ぐまち」をしっかりとつくっていくために投資しなくてはいけないことがいっぱいあって、例えば、今、金谷のインター周辺の土地利用ということで、内陸フロンティアで大分基盤整備というか、スタートのところにやっと立とうとしています。5.5ヘクタールの土地を有効活用できる大きな土地があります。そういう色んなところに、投資をしていく、そういうことも島田としてはやらなくてはいけない大きなことだから、私は、市役所の庁舎は、病院がよっぽど安くできることがない限り、暫くそこは我慢して、今度市役所の庁舎を造る時に、市民会館を合築できるかどうか、それは市民の皆さんと一緒に考えようというように思います。

やっぱり、市民の生活に直結するところから、しっかり、何をやっていくのかということ、優先順位を付けて、皆さんにお示ししていくということが大事なというふうに思っています。

こうした行政の考え方自体、日本の国の、大げさに言えば政治のやり方さえも変わってきているんです。大きく変わったことに早く気がついて、舵を切り替えることができた市町こそが、やっぱり10万人都市を、豊かな街をつくっていくためのスタートだと思っているんです。そこを皆さんに分かっていただきたいなという思いもあって、車座トーク、68の自治会を回ることに致しました。

今、お話ししたように、量的な発展の上に質的な発展をという時に、量的な発展は目に見えるんですよ。あれを造っただとか、これができたとか。でも、質的な発展はなかなか目に見えるものではありません。しかし、例えば、今、2025年という、団塊の世代の人たちが全員後期高齢者になる年に合わせて、今、国は大きな医療制度改革をやろうとしています。それはなぜかといえば、どんどんどんどん医療費がかさんで、今でも毎年1兆円以上の医療費がかかっています。国全体の借金も1,100兆円を超えてきています。このままだと、国も税収が減ってきていますから、道路を造ったり、色々政策をやるお金に限られてしまうわけですね。だから医療費を抑えたいんです。そういう中で、医療制度改革と同時に、在宅へという流れを打ち出しています。これまでは介護保険があって、病院で亡くなる方が多かったし、施設に入る方も多かったけれども、できるだけ在宅へという流れです。もうこれは始まっています。それに合わせて、島田市はこの4月から、24時間訪問看護ステーションというのを始めています。8人の医療行為のできる看護師さんに待機していただいて、電話をいただいてから、その患者さんのかかりつけのお医者様の指示書に従って、その医者の指示したとおりに医療行為を行える看護師さんが、真夜中でもそのお宅に行くということです。そして本当に、悪ければ市民病院に入院していただいて、良くなってきたらお宅で療養していただく。そのために訪問看護をしていくという流れであります。

あるいは、御高齢の方で、一人暮らしの方も多くなってきました。単身世帯、夫婦だけの世帯、年金だけで暮らしている方が増えてきて、やっぱり一人暮らしの方は、特に地域の中で診てくれる方がいないと不安になってくる。そういう方たちに、協力をしていただいて、島田市役所の方から毎週1回は必ず安否確認をしながら、「困っていることはないですか。」「体調はどうですか。」ということを行っています。その登録をしている方がだいたい500人ほどおられます。こういった、細やかな施策をやりながら、島田で安心して暮らせる政策をしています。それから、前からも島田は子育てとか教育に力を入れていますから、これもしっかりと県内1、2を争う子育て支援の街をつくっていくということです。

しかし、私が思うに、やっぱり若い人たちが、ここに残るためには、仕事です、仕事。仕事と住むところ。やっぱりこれが大事だと思っています。そうした中で、今、島信さんの向かい側に、島田市産業支援センター「おびサポ」というものをつくりました。これは地元の事業者の皆さん、産業界の皆さん

に、国や県や市の補助金の制度、使えるものを使っていたり、あるいは副業をやりたいという方には、その副業の支援をしたり、規模拡大をしたい。雇用を増やしたい。様々なご相談に乗らせていただくことをはじめています。

産業支援センターだけではなくて、企業誘致ということも非常に大事ですので、内陸フロンティアというかたちで、金谷インターの土地利用を今考えているところであります。

ただ、やりながら一つ矛盾に思っているところがあります。製造業の工場が来ても、大学を卒業した人たちはなかなか製造業では働いてくれないんです。

やっぱり、大学を出た女性たちが島田に戻ってきて働ける場所というのが必要なんだなあということをつくづく思っています。これもまた、おとといでしたか、国のまち・ひと・しごとの創生会議があって、東京へ行ったときに、最新の情報ということでお話を伺ったですけれども、平成26年から地方創生を色々やっているわけですよ。それは、東京一極集中を改善して、地方に人を戻そうというのが地方創生なんです。でも、平成27年は、東京都の出と入りを比べたら、12万人の入り超過。東京にますます12万人増えてしまったという結果でありました。その12万人の増えた人口がどこから来たかということを調べたら、全国69の地方都市から来ている人が半分以上を占めるというデータが出ております。その69の地方都市の中の、上位の方に、静岡と浜松と沼津が入っていました。

結局、我々にしてみたら、静岡や浜松や沼津は静岡県から東京へ出て行かないための人口のダム機能を果たすべきところだけど、実際は、そういうところから、どんどんどんどん人が出て行ってしまっているという実態が見えてきたこと。もう一つは、男の人は、ある程度の年になった時には、長男だとかなんだとかで、戻ってくる方が結構いるけれど、東京に出てった女性の方はほとんど戻ってきていないということもデータの中で出てきました。なかなか地方都市は頑張っていて、いろんなことをやっているんだけど厳しい現実だなあと思いました。特に若い女性が住んでくれないと、今いくら人口が一杯いっても、いずれなくなっちゃうんですよ。やっぱり、若い人に住んでもらって、ここで子どもを産んで育ててもらわないとダメなんですよ。そのための政策ということで、いろんなことをやっています。島田は、例えば他県から来てくれた人には、マンションの場合でもそうですけれども、120万円まで、土地を買ったり、家を建てたりする補助を出したりもしています。様々な政策をやっているんですが、なかなか現実には難しいなと思っています。

国は東京一極集中を解消して、地方へ人を帰すんだということを言っているんだけど、現実にはますます東京に人が集まっているということがわかった。国から直接聞いたデータです。

そうした中での地域づくりですから、ますます皆さん方も役割というか自分たちの地域をどうしていくのかということ、その志を大事にしていきたい。私も大好きな島田のために、やれることは何でもやりたいと思っていますが、皆さんも大好きな自分たちの地域のために、自分たちで地域の課題を解決できるかねというようなそんなお話がしていただけたらすごくありがたいと思っています。

■道路整備等について

長いこと皆さんにご心配をお掛けしてたというか、遅れていました、「本通御仮屋線」の改良事業、歩道をつける事業、こういったものの事業が今年予算をしっかりとつけておりますので、やれると思います。こういった、「本通御仮屋線」とか、様々な生活道路の改修なんですけれどもね、市としてはきちっと計画通りやっていきたいと思っています。ただ、難しいのは、さっきお話したように、国の方がですね、新しい道路を造るといようなことや、維持管理のための予算がですね、平成12、13年頃に比べると3分の1くらいしか予算がつかえません。そのころ道路関連の予算として我々のような基礎自治体に、年間で16兆円くらい補助金が下りて来ました。それが、ここ数年、5.1兆円、5.2兆円とかという規模です。静岡県も35の市町に降ろしてきた道路関連の予算が165億円くらいありましたが、昨年も今年も46億円、7割カットでございます。こういうふうには、国や県からお金が下りてこない、それを頼りにして、プラス市のお金を足して、事業をやっているもんだから、なかなか進んでいかないという現実があります。

しかし、毎回毎回要望活動をやっていますので、必ず少し遅れても皆さんとお約束した事業については、やってまいりますので、そのあたりのことは御理解ください。そして同時に、市民の皆さんからも御要望をたくさんいただくと私も動きやすくなります。

もう一つ、今聞かれるのは、例えば、この道路ができれば、島田大橋から吉田の方に行く島田吉田バイパスというのが去年の11月にオープンをしましたが、あれは40年くらいかかってできた道路なんですね。あの道路ができて、国土交通省に何て聞かれたかという、あの道路ができたから、東名の吉田インターから市役所までは何分走行時間が縮まりましたとか、企業が何件誘致できました、この地域に何人人口が増えました、というストック効果というんですが、そのストック効果を示さないと、もう国も県もいろいろなことをやってくれないという時代になって、道路を造ってくださりだけではなかなか難しいという時代になりました。だから、知恵を絞って、民間並みの発想でスピード感を持って我々はやっていかななくてはならない。そのことを職員と話しているところでございます。

■新病院の建設について

病院は今年、事業計画をたてることになりました。3月に全国から公募して、手を挙げてくれた病院専門の設計会社、大手の会社6社に来ていただいて、ご提案内容を1社一時間ずつ提案していただいて、そして1社が決まり、その1社と病院側（行政側）がいろいろ意見交換をしながら、今、設計の細かなかたちを決めています。今年度中に設計をし、来年詳細設計、30年からは建設にかかって、32年の末までに完成するという予定であります。平成32年というのは、合併特例債とあって、金谷町と合併して最初の10年使えた合併特例債が5年延長になって、その期限が平成32年なんです。ですから、そこまできちっと、建設を果たして国からの合併特例債の交付措置を受けて、少しでも財政的に工面できるようにしていきたいと思っています。

病院は今のところ、7階建てか8階建てくらいになるかたちです。造る場所は、今の東側の駐車場のほうになります。道を付け替えたりして、一団の土地を生み出しますが、市民の方の中には、地盤は大丈夫なのか、あの土地だと三角形の建物になっちゃうんじゃないかなど、いろいろな御質問をいただきます。まず、地盤のことは、議会でも良く聞かれますので、お話しすると、あそこは元から軟弱地盤というか、大井川の瓦礫層のあることではありません。岩盤まで少し距離があります。一番深いところで30mくらいある。けれども、その上は、粘土層でして、液状化というのは水と砂が混ざると液状

化するんですね。液状化するような土地ではない。県の第四次被害想定の中でも、液状化しにくい場所ということできちつとされています。ですから、きちつと岩盤まで杭打ちをしたり、工法をしっかりすれば、建物に地盤が弱いということの影響が出るということはないということが全ての設計の会社が提案書の中で工法はいろいろありましたが、地盤は問題ないということが出ていますので、そこはご信頼をいただきたいと思います。

以前、街中への病院の移転の話があったときに、今の病院は地盤が悪いという話があったようですね。それで市民の皆さんは心配される方がいらっしゃいますが、地盤のことは大丈夫であります。建物も三角形の建物なんかにはなりません。まだ、正確に決まったわけではありませんが、T字型の建物が提案の時にはお話をいただきました。屋上にヘリポートがつかます。ですから、ドクターヘリが屋上に降りて、そのまま手術室なりに運ぶことになります。

今ある救急棟を活かすという形にしていますが、たぶん救急棟は、今の計画ではですよ、はっきり決まったわけではありませんが、透析する患者さんが増えている中で、透析の専門のフロアにしたいというようなお話もあるというように病院の方から聞いています。

診療科目も今とほとんど変わらず、精神科が、平成19年から休んでおりますが、精神科は入院の患者を診るだけの先生の確保が難しく、閉鎖になるかもしれませんが、あとは、今と同じ診療科目、そして病院のベッド数ですが445床ということで考えております。今の病院が520床程あります。そのうち、精神科の病床を抜かして、あと35床ばかり療養病床というのがあります。新しい病院でも療養病床に長期で入院している方はずっと市民病院が診ていきます。ただ、島田の市民病院の療養病床は、一般の療養病床のようにずっといるわけではなくて、次に行くところが決まるまで、いらっしゃる、そういった退院調整をするような機能で今使っているものですから、療養病床というベッドにしなくても、一般の病床の中で診ていくことにいたします。なぜそういうことになるかという、今、厚生労働省はいろいろな医療制度改革の中で、病院を丸ごと機能別にしたいという考えを持っています。私は、なかなか難しいと思いますが、厚生労働省の考えは、救急病院、回復期の病院、療養病院というように、病院丸ごと指定するわけです。だから、救急期を脱したら患者さんは慢性期の病院に移るということです。現実には難しいですね。例えば、胃が悪くて入院していても、整形外科にも雇っているかもしれないし、眼科にも雇っているかもしれないし、大変難しいことだと思いますが、そういうふうに、病院丸ごと機能別にして、実は医療点数、病院の経営に関わることを決めていきたいということの方針として出しています。そうすると、島田の市民病院は、救急病院として、残ってきたいんです。救急病院というのは、7対1といって、患者さん7人に対して看護師が1人以上いないといけないんです。療養病床というのは、13対1とか15対1とかいって、一人の看護師さんが13人から15人くらいの患者さんを診ることができます。救急病院の中に違う慢性期の病院が混ざるような、そういうシステムがなかなか医療報酬の点数の中で、認められないというような方向性が出ているものですから、市民病院は救急病院としてやらせていただきたいということが、実は療養病床をなくしていくことの原因であります。なくしても、しっかりと退院機能については一般病床の中で診ていきますので、今よりも御不便をかけることはないと思いますが、しかし島田は、唯一、入院できる病院が市民病院ですから、皆さんのよりどころですから、しっかりと機能するように努めてまいりたいと思います。

同時に、ハード的な機能だけではなくて、そこにお医者様がしっかりといないと、何よりもお医者様が必要ですので、お医者様の確保にも力を尽くしております。島田は京都大学系といわれてきましたけれども、京都大学も関西系の学生さんが多くなって、静岡まで来たいという学生さんはほとんどいらっしゃらない。みんな希望でインターンをやる時代になりましたから、本当に難しくなって、京都大学からはなかなか静岡の病院を面倒みることは難しいと

いわれる時代になりました。私はしっかりと地元の医科大学である浜松医科大学との連携を深めてまいりたいと考えています。浜医には2月に1回くらいは必ず伺って、学長、医長さんとお話をさせていただき中、安定的に医師を送っていただけるようにずっとお願いしているところであります。



また、志太の3病院も今もお互い得意分野がありますから、例えば循環器ですと焼津や藤枝からも島田の病院に患者さんが回ってきますし、島田からは、産婦人科でなかなかこちらで診きれない時、焼津にお願いしたりとか、そういった連携をもちながらやっていますが、これからより一層、連携が深められるように、そういったところも検討してまいりたいと思っていますところ です。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■避難行動要支援者名簿について 個人情報の開示を同意している、同意していないに関わらず避難行動に支援をするということで、情報を開示することについて、もう少し詳しく説明をしてください。</p>	<p>●みなさんのところでも、避難行動要支援者台帳というものを作っておられたり、その中には、名前、住所、年齢、性別、障がいの程度、その他プライベートなことも書かれているのかもしれませんが。災害時に人を助けるために、その障がいの程度の中まで知らなくても、名前と住所と性別、これくらい分かれば、すくなくとも、どこに誰が助けを必要としている人がいるかということは分かります。そここのところまでの開示を、誰が助けるか決まっていますよね、その方に開示をしていこうということなのですが、これまでもいくつか課題があって、個人情報の保護の観点から、いつのタイミングなら出せるんだ、誰が判断するんだ、誰が責任を持つんだ、大きな地震があったり、大きな災害があったときには、出すんだけど、その判断に、常に迷うということがあったと思うんですよね。そういった部分で、島田市は、例えば大雨が降って、危険かもしれないという時に、「避難準備情報」というのをまず出します。これは、「避難勧告」よりも前に、御高齢の方とか、障がいをお持ちの方は早めに避難してくださいという「避難準備情報」の段階で、「避難行動要支援者名簿」を開示しますよということをこの間言いました。対象は約9千人。事前の登録で、自分は名前とかそういうものを公表したくないという方もいらっしゃるということでした。そういう方が約千人弱ということを知っています。その方たちには、電話をかけて確認するといっていました。しかし本来、どうしても命を守るという段階になった時には、名前と住所、その人がそこにいるということについては、行政の側で開示させていただきますよということを、これから台帳を作る時に、確認するときにお一人お一人にお話をすることの中で、実はここまで踏み込んでやったのは、県内では島田市が初めてですけれども、全国的にもほとんどないんじゃないかという</p>

		<p>ことは言っておりました。新たなモデルケースにはなるかなと思っておりますが、私は防災には大変に力を入れています。自分自身も防災士ですし、市民の安心安全、命を守ることは政治の原点と思うから、そこはすごく力を入れているんですが、その中の一つに、皆さんに迷いなく行動をしていただくための一つのあり方が、この「避難行動要支援者名簿」の開示なんだと思ってさせていただいた次第です。詳しい台帳の控えは民生委員さんのお手元にもいっていますよね。それとは別に、住所と名前と性別と簡単などころだけを開示するということでもあります。</p>
2-1	<p>■ろうあ者への対応について ろうあ者の方は、電話でのやり取りができないじゃないですか。自宅で病気になった時とか、怪我をしたときには、FAXで連絡をするかたちになっていると思うんですが、外で怪我をした場合には、外で事故に遭われた場合の連絡システムができていないと思うんですよ。今、大体の方が、携帯かスマホを持ってらっしゃいますよね。ろうあ者に限ってでもいいんですけれども、そこから送るシステムというのはいないのでしょうか。</p>	<p>●詳しいことを責任持っていえないことは申し訳ありませんが、島田は障がい者の方が一つにまとまって、自分たちが災害に遭ったり、具合が悪いときに、どうやって助けてもらうんだという冊子を皆さん方で作ったんです。ものすごいことだと私は思っていますし、よそにないことをやっています。障がい者の方々の助け方とか、SOSの発信の仕方だとかというものが書かれているんですが、一般の市民の方が、それをどれだけ理解するかということがあると思うんですね。もう一つは、我が家は無事ですという黄色い旗のハンカチ版のようなものがあって、それは具合が悪いときに、こうやって手で持っていれば、周りの人が声をかけてくれるように、SOSの印になっているんです。こういったことの啓発をもっと進めていかなければいけないなと思いました。助けてくださいが分かれば、筆談でもなんでもやれると思うので、黄色いハンカチを障がいをお持ちの方たちに、もう一度、行き渡っているかだとかを考えてみる必要があるのかなと今、お話を聞きながら思いました。</p>
2-2	<p>■単独事故とかで、周りに自分しかいないときに、スマホはあるけれどもしゃべれない。それが、メールでつながるとか、消防署で緊急メールみたいなものがあれば、自分が事故に遭ったときに、伝えられる状態であれば伝えることができるんじゃないかなと思います。</p>	<p>●緊急メールですね。これは危機管理の方に話をして、改めて自治会長さんを通してお答えさせていただきたいと思います。【検討事項1】</p>
2-3	<p>■災害のときに、玄関のところに掲げる黄色い旗を出しておけば、家族が大丈夫だという目印ですけれども、昨年度、引越してきた方のために、危機管理課の方にその旗をもらいにいったんですけれども、在庫がなしと言われてしまって、年度が替わったら予算付けするからということで、その後はどうなっていますか。</p>	<p>●予算はつけています。千本か二千本作ったはずですが。今度はきちっとお渡しできるはずですが。 (6月頃ということは聞いていますが、危機管理課に確認をしてみます。) 【検討事項2】</p>
3	<p>■県内からの移住者に対する補助について おおりの水洗トイレが洋式になって大変使いやすくなってありがたいございました。うちの娘夫婦が家山に住んでいます、家山で</p>	<p>●県外からの移住に対する補助金を創設する際に、近隣の市町からも認めるかどうかということを検討しましたが、これは一つの考え方なんですよね。県外からだど静岡県の人口を増やすことになるし、この近隣市町の奪</p>

	<p>は、若者の住宅や川根小学校の改築などによって、子どもたちは保育園ですけれども、クラスが増えたんですよ。今まで1クラスしかなかったのが、2クラスになったということは、本当に人数が増えているという事で、そういうことが結果に出ているのかなと思っています。ただ、島田市内(旧市内)のほうでは、ここでは子ども会では13軒しかありませんし、子どもさんを目にする機会も減っています。子ども会と一緒に行事もできなくなっています。県外からの移住者に対する補助金は先ほど説明をいただいたんですが、県内からの転入者には何か補助金はありますか。</p>	<p>い合いにはならないですけども、藤枝から越してきたらこれだけということになると、この小さなところでパイの奪い合いになるという課題もあるので、補助金が県外に限定をしています。ただ、マンションの方にも補助金を出すとかが、使いやすい制度になるように、これからも改めていきたいと思っています。中古の住宅でも使えます。</p>
<p>4</p>	<p>■女性の定住について 先ほど市長が、若い女性が住まないと、というお話をされましたが、その政策で考えていることがあったらお話をください。</p>	<p>●若い女性に勤め先として選んでもらうには、事務系の仕事、IT関係、ファッション関係など、若い女性が好む職種がこの街に増えていかないと思うのかなあと考えています。そういう話では、起業創業支援というのをやっているんですが、女性の起業創業支援がですね、相談件数が多いんです、先週の金曜日でしたか、起業創業したいという女性たちのセミナーをやりまして、40~50人来ていましたか。それが仕事としてつながっていかねばならないと思っています。島田の元気を発信できて、よその人が認めてくれるのは、ありがたいことだなと思います。</p> <p>●若い人に住んでもらいたいと同時に、もう一つ課題があるのは、結婚する年齢が遅くなりましてね、女性の平均が29歳、男性が30歳。一生結婚しない人も増えてきたんです。生涯未婚率というんですが、男性でだいたい15%位いるんです。女性も30になってから結婚するということになる、なかなか3人という訳にもいなくなってきたりしてですね、やっぱり社会全体が、この各市町だけの努力ではなくて日本の国全体が働き方を見直して、子育てしながらちゃんと働くことができるように、25歳くらいになったら、結婚することもできるようにしていかないと、大学を卒業して2、3年で結婚します、子ども産みますといえないのが、たぶん今の日本じゃないでしょうか。10年働いて、やっと思ったら30歳を過ぎちゃうんですよ。やっぱりそういう全体の仕組みから見直していかないと、日本の国はなかなか人口が増えていかない。子どもの数が減りだしたのは、1975年からです。もう40年も経っているんです。ただ、最近まで言わなかっただけの話で。元に戻るにも同じくらい安定してくるまでには30、40年かかる。そうすると、これから、30、40年は増やす努力は一生懸命するんですけども、一方で現実的には少しずつ減っていくという、そういう世の中を生きるんです。だから、そういう新しい仕組みをつくっていかなくてはいけない。そこがこれからのポイントかなと思っています。</p>

5-1	<p>■本通沿いの空き地について 本通のところに市の土地がありますよね。もう16年は経っていると思うんですけども、そこはそのままにしておくんでしょうかね。今、空き店舗が多いじゃないですか。空き店舗どころか家を壊しているところもあるので、商店街の印象が悪くなっているとは思いますが。</p>		<p>●市のこういった土地は、一つには行政財産、もう一つは普通財産。行政財産というのは、市役所や支所、学校を造ったりする行政的に使うよという土地です。普通財産というほうは、公売にかけたりして、使っていてという対象となる土地なんです。図面を見ないとわからないですけども、普通財産であれば、今後公売にかけて、活用していただくというとう選択に入ると思います。</p>
5-2	<p>■特にあそこのところは、塾があって、迎えの車が停まっているんですけども、そこで事故があったこともあるんですよ。あそこの土地が空いているんで、駐車場にしてもらえらるであれば、そういう土地であればね。そういう活用方法をしたらいいんじゃないかなと思って、前の市長にも言ったことがあるんですよ。そうしたらぴ〜ファイブが一杯ではないので、あそこは駐車場にする必要はないということをおっしゃったんですね。ぴ〜ファイブが一杯だったらということはおっしゃったんですけども。去年のマラソン大会のときにも、草取りをやったんですけども、あそこの草むしりをするのが一番遅かったです。本通の中で、草ぼうぼうのままにしておくのも見た目は良くないと思うんですけども。大体買い物をする人って、店のすぐ前に店に入れるという方がお客さんとしてみれば楽かなという思いがあると思うので、ちょっと貸すとかという対応ができればと思います。</p>		<p>●場所と現状と広さもありますので、検討をします。なかなか行政は商売ができないんですよ。貸し駐車場をやるとか。そういう資産の運用はできないものだから。お話の内容はよく分かりますが、実は最近、市の土地の有効活用で、そこに建物が建つようになったんですが、建つ前は駐車場としてお貸ししていたんですよ。建物を建つことになったので駐車場として使えなくなりますと1年前にお話をしたんですけども、駐車場がなければ困ると。商売にも差し障るじゃないかと。ということになってしまいましたね、本来は駐車場のないところに使わせてということでお使いいただいたんですけども、結局、ずっと使っているうちに、行政がそこに建物を建てるよってことになると、駐車場はどうしてくれるのということになって、なかなか難しい課題があるなあと思っている次第です。こういった市の財産を管理するところに有効活用の方法ということで話をしてみます。 【検討事項3】</p>
6	<p>■本通沿いの歩道の幅員減少について 区画整理の境の本通りで、未施行の方は家が前に出ているが、施行の方は、歩道が広いので家が引っ込んでいます。東から来た自転車、北側から来た車との衝突事故が多いんです。塾に行く子供さんとか、学生さんは勢い良く走ってしまうので、車も見難いですよ。あそこは何とかならないかなと思います。</p>		<p>●事故が多発する場所についての標識だとか規制だとかは、行政はいつも警察にお願いしています。行政の方ではその対応ができません。この件につきましても、場所を確認して話はさせていただきます。【検討事項4】 ●横井の車座トークでも、イナズマガードの逆走についても御質問いただきましたけれども、これも看板をつけるのも規制をかけるのも警察の方にお話してということで、それはしっかりと伝えてはいるんですけども、横断歩道や信号もそうなんですけれども、交通関係はなかなか行政だけの力で、ここに信号をつけますといえないところがあって、この箇所についてはしっかりと話をさせていただきます。</p>
7	<p>■年末年始の市の業務について 市役所の業務の都合もあるとは思いますが、年末年始に市の</p>		<p>●行政は28日が仕事納めで29日から休むんですが、3日まで休むんですよ。いわゆるこども館ですとか博物館とか図書館とかという施設なんだ</p>

	<p>施設がほぼ一斉にお休みになってしまうけれども、もう少しお休みを短くするとか、役所の方が交替でとか、ボランティアを使ってくださっていいので、全部お休みをすることは、ちょっと不便を感じていますので、その辺はいかがかなと思っていますけれども。</p>	<p>と思うんですね。中には指定管理とって民間に施設管理をお願いして夜遅くまでやるとか、年末年始のお休みを短くするとか、色々なことをやっているんです。皆さんの生活に直接つながるところの、ゴミの収集とかは全く休みなくやっているんですけれども、こういった施設については、今のところ休みをいただいております。今の時代ですから、年末年始だから遊びに行けるということもあると思いますので、また検討はさせていただきます。例えば、民間だとお給料の上乗せなどをしますからといえるんですけれども、なかなか行政もそこまでできないものですから、考えどころだとは思いますが、市民のサービスということで年末年始だとかについて、ご意見は承っておきます。【検討事項5】</p>
8	<p>■ボランティアの登録情報について</p> <p>秋田の方のまちでは、今島田でもシルバー人材センターがあると思うんですけれども、私もそこがどういう仕事をしていて、職種があるか勉強不足で知らないんですけれども、秋田の方では、その年齢の上、プラチナサービスという組織があって、年をとった方でも登録をしておいて、自分の合った仕事とかお給料とか、お給料も要らないよボランティアでいいよという登録を、デイサービスにしている方もそういうところに登録をして、自分なりに社会に貢献できるような仕事をしてイキイキとしているという新聞の記事があったんですけれども。一日とか半日では無理なんですけれども週に1回ですとか、2時間とか、そういうことでボランティアをさせていただければ、そういう情報をですね、こういうところにこういうボランティアがあるからやっていただけますかとか、ここにこういう仕事が週に2、3日ですけれども、どうですかという情報をね、出していただけるようなシステムがあれば生きがいにもなるんじゃないかなと思います。</p>	<p>●いいアイデアをいただきました。シルバー人材センターは、島田も会員数が多くいまして、最高齢の方は94歳で、庭仕事なんかはできないんですけれども、でも会員でいることが自分の誇りだと、生きがいだといって、会員になるにも少しはお金を出すものですから、ずっと会員でおられる方もいらっしゃるし、職種もすごく様々。障子貼りみたいなこともありますし、草むしりもありますし、庭木の手入れとかもありますし、色んな職種をやっています。ボランティア情報を欲しいということで、これを市でやってもいいんですけれども、私のアイデアですよ、この六丁目さんの中で、例えば蛍光灯一本取り替えるのも、ちょっと大変といわれる方もいらっしゃるし、切れちゃったけど、どういふのを買ったらいいかかわらないとか、ほんのちょっとしたことなんだけれども、やれない方はいらっしゃると思うんですけれども。わたしなんかパソコンが動かなくなるとどうして動かなくなっちゃうかわかんないですよ。そういう得意分野のある方たちが、ちょっと様子を見に行き行ってあげて、直してあげるとか。一回行って500円もらうとか。それくらいの金額だったら、お互いに頼りきっているわけでもないし、負担にもならないしというかたちで、やりとりができるならね。ちょっとしたことなんだけれども困っていることって日常生活の中にはあってね、たぶん、民生委員の方はいろんなかたちでそういった方たちのお手伝いをしているんだと思うんですよね。それがボランティアの情報として、この地域の中だけでもそんな情報があったら、草むしりができなくて困っているという情報があればちょっとお手伝いをするとか、買い物に困っているということであれば、ちょっとお手伝いをするとかいうことができる、このほんのちょっとのボランティアが、この地域全体が住みやすくなるためにつながっていくかなと思ったりします。そういう仕事を立ち上げても、もしかしたら商</p>

		<p>売になるかなと思うこともあって、大工さんなど技術のある方は、ちょっとしたことを直したりすることもできますから、そういうのは週に何日かだけ働くことになるのかなあと思ったりすることもあります。まだ、島田の中でやっている人はいないので、金谷の方で一軒聞いたのは、親が亡くなっちゃって、ずっと風も通してない、草も生えているという中で、空き家を定期的に管理しますよという商売を始めた方がいらっしゃるそうです。金谷の土建屋さんだそうですね、ちょっとしたところのアイデアだなあと思います。こんなふうにならば商売になるということも、これから出てくるのかなあとというふうに思います。</p>
9	<p>■公園の整備について 子どもたちに聞いてみると、近くに公園があったらいいなというんです。子どもたちが集まれる公園があれば、そこに行って遊ぶでしょうけれども、昔は田んぼでも空き地でもそういうところに行けば、高学年から低学年までみんな一緒になって遊んだ。そういう場所があれば子どもたちはそういうところに行って、学年を問わずして、いいことも悪いことも大人がそこに入って注意もできる。でもそこに場所がないから、どうしても子供たちは家へ家へ入っていくんだろうなって思います。そうすると、若い親御さんは共稼ぎだから、家に大勢の子どもが集まって、みんな黙ってゲームをやっている。なにがあればいいかなって聞くと公園があればいいなって言うんです。公園あるよねって聞くと、元島田公園やSL公園に行くということで、近くにはなくて、学校となると、いったん家に戻って、学校まで来なければいけないので、交通量が多くなる夕方などは心配。昔は、外で遊ぶことで体力も身につけていた。</p>	<p>●公園は少しずつでも整備をしたいと思っていて、今年も金谷の方に夜景百選に選ばれた牧之原公園というところを手直しして、使えるようにしていきたいと思っています。フェンスだとか遊具だとか大分古くなっているところが多くてですね、予算の配分の関係もあるんでしょうけれども、大分修繕が進んでこなかった事情があったようです。少しずつやっています。やっていますが、全体がすごく大きいので時間がかかるかもしれませんが、公園の維持管理や拡張も少しずつですが、しっかりやしていきたいと思っています。 公園があるとみんな外遊びするかどうかという、実は公園があっても子どもたちはほとんど公園にいないです。やっぱり家の中で遊んでいるお子さんが多いという現実を思うし、また不審者が出るなどなんだのという課題もあったりして、人がいないところで子供が遊んでいてどうこうかという課題もあったりしてですね、公園があればみんな子どもが遊ぶんだったらいいんですけども、現実にそうになってないなあと思っています。休日に親と一緒にという方は結構いるかもしれませんが。</p>
10	<p>■小学校の運動会におけるテントの活用について 小学校の運動会で、ここ数年は熱中症の対策として、数値を測る機械で計測して給水タイムなどの措置をしています。来賓の方たちに、子どもたちにもテントがあったらいいねといわれます。でも、同じ日に色々なところで運動会があるものですから、テントには限りがあるので、町内会とか自治会とかは防災のテントとかがあると思うので、貸していただければ、児童の熱中症対策になると思います。</p>	<p>●運動会の時期の自治会のテントですけれども、市内全域はよく分かりませんが、例えば私が住んでいる初倉地域は各自治会が全てテントを持っています。防災訓練だとか区民体育大会のときに使っています。ですから自治会は貸してほしいといえれば喜んで貸すんじゃないかなあとというふうに思っています。むしろ学校の方があっても大丈夫なのかどうかを、応援の関係だとかいろいろ、そういうところに課題はあるかとは思いますが。</p>
11	<p>■街路樹について 路地に入るとお花がいっぱいあるよと女の子が言っていたので、どういうことと聞いたたら、木がいっぱい植えてあって、その下にお花があったらいいなと言って、そういう絵を書く子もいます。路地に入ら</p>	<p>●花いっぱいとは、自分のうちの前だけでもプランターとか街路樹の下とかに花があるそういったかたちにできるように苗とか種とかを行政がお出しするというようなことはやれるのかなあと思います。花の会と協力しながら。余計なことですが、就任したおとしから思っていることが</p>

	<p>なくても街路樹の下にお花があったらいいなということを伝えたくて言わしてもらいました。</p>	<p>あるんですけども、場所によっては街路樹が鉛筆みたいになっちゃって、枝を全部切られて、上も切られて、葉っぱも一枚も付いていない。あれを見ると本当に痛々しくて、街路樹が必要なかどうか、地元の人が考えなければいけないと思うんです。私は、担当の土木の方に、街路樹がイキイキしていることは、その街の文化度の表れだといったですよ。夏には日陰を提供し、秋には季節を感じ、街路樹を大事にできるそういう街にしたいと言ったら、担当の方から言われたのは、「葉っぱが青いうちから、雨どいに詰まったらどうする。滑って転んだらどうする。と言ったたくさんのお電話をいただきます。切らないわけにはいかないというんですね。是非、街路樹のある、ご町内の方には、本当に街路樹が必要なかどうか、これも考えてもらえるとありがたいなと思います。街路樹がいらなかったら、街路樹を切って、ちっちゃなつつじだとか、そういう木に植え直します。皆さんがお邪魔だというなら。でも、街路樹を剪定するお金で、落ち葉が舞うときだけ、シルバー人材センターに頼んで掃除をしてもらう事だってできます。やっぱりこれは考え方だなあって思います。昔、島田は銀杏の木がたくさんあって、駅前ね、秋になると本当に黄金色に輝いて、いっぱい落ち葉があったけど、きれいでした。今交番の前に大木が一本あるだけ。それも葉っぱが落ちないようにネットがかけられていて。本当に時代なのかもしれないんだけど、そういうこと一つ一つにも市民の考え方や、潤いの余裕の気持ちというのかな、そういうのが出るような気がして、皆さんが必要ないよというんだったら、もう街路樹は外します。そして低木を植えます。でも、必要だっというんだったら、皆で大事にする努力もしないと、枝もなくなって、てっぺんも切られた木は、虐待をされた動物のようなイメージです。色んな街に行くと、のびのびと街路樹が茂っていて、東京でも名古屋でも落ち葉がガサガサいって舞っています。これから夏が過ぎて秋になりますから、皆さんの心のどこかに引っかかってもらえれば、意見をもらえたらありがたいなと思います。</p>
12	<p>■元気アップシニアサポーター講座について 元気アップシニアサポーターに行かしてもらっているんですけども、対象は65歳以上で月曜日から金曜日まで午前と午後やってらっしゃるみたいですけども、今年はずじめて希望を出させていただき、当選しましてお世話になっています。実に65歳以上の方がね、元気で、今年度からサポーターが協議会制度になったんですね。サポーターさんが笑顔で親切で、無理なくやっくださるものですから、大いに利用して、高齢者の医療費の削減につながると思います。</p>	<p>●おおりの入口の1階のところの大きなドアでない脇のところの入口のところでもいつもやっています。私もおおりに行くたびに顔を見せて、皆さんの顔を拝見するんですけども、元気アップシニアサポーター講座はですね、6台のマシンを使って、そう若くはない方の体力維持にすごくいい運動になるんですけども、とても人気があって、一番の特徴は、男性が大勢来てくれることです。ほかの高齢者向けの講座はほとんどが女性が多いんですけども、男性が大勢来てくださって、しかもそこで、一生懸命やった方たちが、今度は新しい方に教える側、サポーター側にまわっ</p>

		<p>て、また次のマシンの方に教えていくということで、とても人気があるので、1セット600万円するんですが、今回金谷地区にももう一つ置きました。金谷の夢づくり会館の一階にも同じマシンをそろえて、金谷地区でもやっていただけるようにとおきました。是非、大勢の方たちにご利用していただけたらありがたいなと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
<p>13-1</p>	<p>■大井川の水の濁りについて 我々の子供の頃は、大井川で水遊びをしたんですが、今、大井川を見てみると、川口の発電所から下流は水が濁っちゃって、とても川で遊ぶような状況ではないですね。ここ数年、鮎釣りをやっている人も見たことがないですね。川根本町なんかを見ると、大井川の清流を守る会を組織して、町をあげて水を通年通すように、今してあるんですよ。島田市もやはり、下流地域の大井川の水をもう少しきれいにする努力を国土交通省あたりに交渉をしてやったらどうかかと、ただ、釣りが好きな人だけでなく、大井川は島田市民の憩いの場であるならば、そういうことをもっと積極的にやったらどうかと思います。</p>	<p>●大井川の清流を守る会は、島田市も川根本町さんと一緒にやっています。大井川は15のダムがあるんですね。利水とって、洪水にならないような調整だとか、またそういった機能を持っているのが長島ダム。残りの14のダムは、発電用のダムで、しかも大井川の水は、一滴残らずみんな水利権がついていて、どこに毎秒何トンといったようなものが決まっている川なんですけれども、でも、河原砂漠ではないということで、実は流す水の量を、中電、東電と交渉をしながら変えています。それでいくらか、水の流れが戻ったかなあというふうに思うんですけれども、何より水が濁っていることの一つは、大井川は多少エメラルド色をしているところもあるんですけれども、それ以上の問題なのは、パルプから出てくる水なのかなと思ってまして、それが蓬莱橋の下(左岸)を通らないようにということで、少しサイフォンで流れる方向を変えたりしているところです。水質上は何ら問題はないんです。見た目というところでは、濁りがあるというようなことをいわれる方もいらっしゃいます。ただ、真ん中辺りまで行けば、結構きれいな水が流れているかなと思うんですけれども。</p> <p>リニア中央新幹線の問題は、毎秒2トンの水が消失するかもしれないという中で、大井川の水は必ず大井川に戻すんだということで、JR東海さんとの交渉をしています。ただ、水の量がいくらトンネルで引いてきて、湧水(トンネルの中で湧いた水)を全部大井川に戻したとしても、水が濁る問題やら、環境破壊の問題、生態系の破壊、変化であったりですか、磁場の影響等、色んな課題があるんですね。私自身は大井川の地元といえは島田だと思っているんですよ。我が街のど真ん中を流れてきている、川根本町と島田市が大井川の地元だと思っているんです。ところが交渉の権利は、工事する地先であります静岡市、県にある。県と静岡市を通さないとなかなか意見も言えないという状況の中で、最終的には、県は知事が判断するといっていますけれども、地元で納得していただける、説明がもらえるように、しっかり交渉していきたいなと思っています。濁った水の原因はなんだと思いますか。大水が出たときには、大井川は一時は濁りますが、何日かすれば、また元に戻るんじゃないですか。</p>

13-2	<p>■原因は長島ダムだけではないと思うんですけども、大水が出たときに、ダムに濁った水が入るじゃないですか。それが澄んでくるまでに、1か月とかかかりますし、ダムの放流の仕方にも問題があるのではないかと思います。水の上の澄んだところを流してくればいいんですけども、そこの方の濁った水を流すので、川も濁ると思います。昔は、一週間くらいで水がきれいになりましたが、今は一ヶ月くらいは濁っています。</p>	<p>●今度長島ダムに行きますので、聞いてきます。</p>
------	---	-------------------------------

※ 回答は全て市長から回答した。

④その他（市長から）

●市民会館の解体について

- ・市民会館の解体は、5月の連休明けから解体をはじめております。5月の中旬までに地元の皆様にもご説明をして、最初の予定は11月の初めってなっていたんですが、できればお祭りに間に合わせてほしいというのが私の実感ではありますが、そこはお願いをしています。
- ・ただ、天候にもよるので、確実にはお約束できませんが、秋までに更地にして、今年度中、来年の3月までには、舗装をして、広い駐車場とイベント広場、災害時における中心部の非難用地として当面の間使うということにさせていただきたいと思っております。
- ・2年くらい、あのままにしておきました。維持費は電気を切っていましたので、ほとんどかかってはいませんでしたけれども、市民の皆様には、壊すならもっと早く壊せ、色んな意見をいただいたのも事実です。ただ、私の中では、市役所を建て直すなら、市民会館の場所しかないという思いを持っていました。そうした中、国も今あるものを壊して、新しいものを造るんなら補助金が出るんですけども、壊すだけだと今の制度だと補助金がなかなか出ない。もう少し市役所を使わせていただくという中で、市民会館を壊すと。今年から除去債といって、壊すだけでも公債を発行してそのお金を用立てることができるようになったものですから、そちらの制度を使わせていただいて、市民会館を解体するということになりました。
- ・皆さんの思いは重々承知をしております。今しばらく市民会館は、更地ということになります。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

⑤当日の様子



⑥検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
2-2 検討事項 1	<p>●緊急メールですね。これは危機管理の方に話をし、改めて自治会長さんを通して答えさせていただきたいと思えます。 【検討事項 1】</p>	<p>■「NET119-緊急通報システム」という聴覚や言語に障がいをお持ちの方を対象とした緊急通報システムがあります。 「NET119-緊急通報システム」は携帯電話・スマートフォンを利用して素早く事故、災害、怪我、急病などでの救急車の要請や火災の通報を行う連絡システムです。 通信料以外の利用料は無料ですが、事前登録制ですので、申込み及びご相談は福祉課までご連絡ください。</p>
2-3 検討事項 2	<p>●予算はつけています。千本か二千本作ったはずですが、今度はきちっとお渡しできるはずですが。 （6月頃ということは聞いていますが、危機管理課に確認をしてみます。）【検討事項 2】</p>	<p>■黄色い旗につきましては、今年度、既に 10,000 本を発注いたしました。転入された方へは、市民課の窓口で配付し、既に配付されている世帯で、紛失等された場合については販売する予定です。 現在、詳細につきましては未定ですが、詳しい内容につきましては、広報しまだ7月号へ掲載する予定です。</p>
5-2 検討事項 3	<p>●場所と現状と広さもありますので、検討をします。なかなか行政は商売ができないんですよ。貸し駐車場をやるとか。そういう資産の運用はできないものだから。お話の内容はよく分かりますが、実は最近、市の土地の有効活用で、そこに建物が建つようになったんですが、建つ前は駐車場としてお貸ししていたんですね。建物を建つことになったので駐車場として使えなくなりまして1年前にお話をしたんですけども、駐車場がなければ困ると。商売にも差し障るじゃないかと。ということになってしましましてね、本来は駐車場のないところに使わせてということでお使いいただいたんですけども、結局、ずっと使っているうちに、行政がそこに建物を建てるよってことになると、駐車場はどうしてくれるのということになって、なかなか難しい課題があるなあと思っている次第です。こういった市の財産を管理するところに有効活用の方法ということで話をしてみます。 【検討事項 3】</p>	<p>■ご指摘の市有地は、行政目的を持たない普通財産として管理しております。 当該土地は本通りに面しているため、島田夏まつりや島田大祭の本部・警察官詰所の設置場所、また映画やドラマのロケの際にはロケ隊の駐車場など、イベント等の開催に際して臨時的に利用されております。こうしたニーズに対応するクッション的な役割を持つスペースであることから、平時には貸付等による活用は行っていないのが実状であります。 土地の管理が不十分であるというご指摘につきましては、立地に考慮して除草作業の頻度を上げるなど、維持管理の向上に努めてまいります。</p>
6 検討事項 4	<p>●事故が多発する場所についての標識だとか規制だとかは、行政はいつも警察にお願いしています。行政の方ではその対応ができません。この件につきましても、場所を確認して話はさせていただきます。【検討事項 4】</p>	<p>■警察署には状況を説明し、現場を診断していただきました。 ・一時停止線、標識も存在しており、停止する位置もこれ以上前に設置する方が危険との判断でした。 ・「この箇所については一方が開けており、片方は見通しが非常に悪いので、車両にて通行の際は、特に注意するよう自治会の方で</p>

		<p>も周知をお願いしてください。」との警察の回答でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市としては自転車で通過してしまう者への対策として、近接する塾に対して児童、生徒への注意喚起を依頼し、了解いただきました。(6月17日) ・高校生など自転車で通学する生徒への指導については、交通安全協会交通安全指導員を中心に、今後とも特に重視して実施していくこととします。
<p>7 検討事項5</p>	<p>●行政は28日が仕事納めで29日から休むんですが、3日まで休むんですよ。いわゆるこども館ですとか博物館とか図書館とかという施設なんだろうと思うんですよ。中には指定管理といって民間に施設管理をお願いして夜遅くまでやるとか、年末年始のお休みを短くするとか、色々なことをやっているんです。皆さんの生活に直接つながるところの、ゴミの収集とかは全く休みなくやっているんですけども、こういった施設については、今のところ休みをいただいております。今の時代ですから、年末年始だから遊びに行けるということもあると思いますので、また検討はさせてください。例えば、民間だとお給料の上乗せなどをしますからといえるんですけども、なかなか行政もそこまでできないものですから、考えどころだとは思いますが、市民のサービスということで年末年始だとかについて、ご意見は承っております。【検討事項5】</p>	<p>■通常勤務時間外の業務については、市民課窓口の土曜開庁や図書館の夜間業務などを行っております。市民サービスの拡充のためには、限られた人員と財源を振り分けることとなりますので、行政の原則である最小限の費用で最大限の効果が得られるよう、緊急度や重要度を勘案して、バランスをとらなければならないと考えます。加えて、近年、労働者のワークライフバランスの適正化が課題となっており、休日勤務を命令するためには、労働者保護の観点から、合理的な理由が必要となります。また、ボランティアによる対応については、責任の所在が不明確になるなど、難しい問題があると考えられます。</p>